

“From Kurashiki” が誇りとなる ひとづくり

地域の
特色ある
活動

岡山県倉敷市教育委員会

1 はじめに

倉敷市は、歴史と文化が息づく瀬戸内の中核都市です。この発展を担ってきたのは、倉敷市で育った人々であり、学んだ人々であると思います。また、礎となったのは、歴史と文化に支えられた倉敷市のひとづくり、すなわち、倉敷市が大切にしてきた教育です。

教育は、「国家百年の大計」と言われるように、国家・社会のあらゆる分野の発展の基盤であり、古今東西を問わず、地方自治体においても「ひとづくり・人材育成」は最重要課題であると認識しております。まさに、まちが形作られてきた背景には教育があり、同時に、教育はまちの未来を創る根幹であると言えます。

倉敷市の紹介

- ・人口 48 万人を超え、中国地方の市町村で、広島市、岡山市に次いで 3 番目
- ・全国有数の観光地（倉敷美観地区、瀬戸大橋等／年間観光客数 500 万人超）
- ・活力ある産業都市（水島コンビナート等／製造品出荷額全国の都市で第 3 位）
- ・日本一の繊維のまち（国産ジーンズ発祥の地、全国の学生服出荷額の 7 割占める／日本遺産認定 H29.4.28 「一輪の綿花から始まる倉敷物語～和と洋が織りなす繊維のまち～」）

2 倉敷市教育大綱「“From Kurashiki” が誇りとなるひとづくり」

現在の目まぐるしく変化する社会情勢の中にあっては、これまで以上に、他者への思いやりの心を持ち、たくましく生き抜く力を身につけ、生涯にわたって学び続ける情熱を失

わず、ふるさと倉敷を誇りに思い、このまちの未来を力強く担う「人財＝ひと」を育てることが必要となっております。

そこで、教育・文化を核としたまちづくり・ひとづくりを進めてきた倉敷市としては、これまでの観点を礎とした上で、世界に開かれた視点も加えたものとして、平成 28 年 2 月に「倉敷市教育大綱『“From Kurashiki” が誇りとなるひとづくり』」を策定し、これを教育の目標や施策の根本的な方針として教育行政を推進しています。

倉敷市教育大綱「“From Kurashiki” が誇りとなるひとづくり」に込める 3 つの思い

○ I am from Kurashiki.

「倉敷のひと」であることを誇りに思うひとに」

「倉敷で育った」「倉敷で学んだ」「倉敷に住んだ」ことを誇りに思うひとになるということです。「このまちで育ってよかった。」「このまちで学んでよかった。」「このまちに住んでよかった。」と思えるひとになってほしいという思いを込めています。

○ This is from Kurashiki.

「倉敷らしさ」を誇りに思うひとに」

倉敷には、世代を超えて受け継がれてきた個性的で魅力的な歴史・文化が息づいています。その歴史・文化に支えられながら、倉敷の未来を創っていくことを誇りに思うひとになるということです。倉敷の魅力ある地域資源を活用して、倉敷を活力ある地域にしていきたいという思いも込めています。

○ From Kurashiki to the world

「倉敷のよさ」を世界へ発信できるひとに」

グローバルな観点を持ち、倉敷から世界に向けて視野を広げ、倉敷の魅力の世界へ発信していくことができるひとになることが誇りとなるということです。豊かな個性と創造力で、世界の人たちに倉敷のよさを知ってもらいたい、共有してもらいたいという思いを込めています。

3 G7 倉敷教育大臣会合（平成 28 年 5 月 14・15 日）

2016 年伊勢志摩サミット関係閣僚会合の一つ「G7 倉敷教育大臣会合」が開催され、G7 各国並びに国際機関からの代表団の方々に、倉敷市にお越しいただきました。



大臣会合に先立ち、日本の学校教育の現場を伝えるため、ケネディ駐日米大使ほか G7 各国並びに国際機関からの代表団の方々に、倉敷市立の小・中学校を視察していただき、日本の教育の生の姿を体感いただきました。市内で最も新しく修築された小学校：倉敷市立老松小学校では、中学生が作ったレイをプレゼントし、小学生が描いた大きな絵をバックに合唱を披露するなど、子供たちや学校の先生方の歓迎ムードあふれる雰囲気、参加された大使や大臣の方々は、皆、ほころびの表情を浮かべておられました。そして、社会科の副教材「みんなのまちくらしき」を利用した郷土を学ぶ授業の見学、学校給食の体験、地域のボランティアの方々とともに学ぶ昔遊びの授業や、児童が掃除をする様子を見学していただきました。

次に、市内で最も歴史ある校舎を持つ中学校：倉敷市立西中学校では、書道や英語授業のほか、剣道部や吹奏楽部の部活動を見学していただきました。



公式サイドイベント「G7 倉敷こどもサミット」(3月6日)



給食体験



子どもたちの掃除も見学



剣道部の見学

4 成果と今後

教育の力でテロや貧困など国際課題の解決を目指すとした「倉敷宣言」が採択され、無事 G7 倉敷教育大臣会合が閉幕。この「倉敷宣言」には、大臣会合開催前に公式サイドイベントとして市や教育委員会などが主催した「G7 倉敷こどもサミット」において採択した「G7 倉敷こどもサミット宣言」の内容が反映されております。国では、「倉敷宣言」を実行するため、2017 年度政府予算で「新時代の教育のための国際協働プログラム（倉敷宣言プログラム）」の取り組みを始めています。そして、倉敷市においては、「倉敷宣言」の実現に向けて有識者からなる審議会を設置し、市として実施する具体的な施策の検討を進め、本年 1 月に、グローバルをキーワードとして、「子どものグローバル化の推進」「グローバルな視野をもつ教員の育成」「グローバルな感覚をもつひとづくり・世界に愛されるまちづくり」という 3 つを柱とした答申を得たところです。この答申を受けて、倉敷市では今年度より倉敷宣言を推進するための事業を予算化し、子供をはじめとする市民のグローバル化の推進に努めています。



教育長

井上 正義